



# いざなぎ学園だより

No.2 2022.5/6

## ◆令和4年度 淡路文化会館「いざなぎ学園」第2回講座

4/27、専門講座1『鉄』から見た国生みの島・淡路」というテーマで 淡路市教育委員会社会教育課、伊藤宏幸先生よりご指導いただきました。弥生時代の淡路島における鉄器生産(五斗長垣内遺跡と舟木遺跡)、古墳時代の鉄器生産(雨流遺跡と木戸原遺跡)、海人の活躍、鉄器を通して古代の淡路島の変遷についてわかりやすく、教えていただきました。弥生時代には人々が自らの生活のために必要な道具として生産していた鉄器が、古墳時代になって祭祀などに使用され、倭王権などの権力と結びついていく道具に変わっていく歴史がとても印象的でした。



淡路市教育委員会社会教育課 伊藤宏幸 氏



学年別講座・学年 HR

### ◎学園生の感想 振り返りシートから (抜粋)

- ・五斗長垣内遺跡は家の近くなので何度も行きましたが、よく見ていなくて……。今度行ったら今日のお話を確かめてきます。もっと広く、知識を得たいと思いました。
- ・身近な五斗長垣内遺跡、舟木遺跡について知らなかったことがたくさんあり、勉強になりました。雨流遺跡、木戸原遺跡は全く知りませんでした。弥生時代から淡路島で鉄器が生産されていたことに驚きました。
- ・50年ぶりにメモを取りながら講義を受け、背筋が伸びた気がしました。淡路島の昔に思いを馳せ、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・神話の話、弥生時代の海人の果たした役割など興味深く学びました。「いざなぎ学園」でも遺跡の見学に行きたいです。
- ・「国生みの島、淡路」が特別の島であり、鉄器生産や渡来人との交流など人々が未来に向けて生活していた姿が目には浮かびました。
- ・遠い過去の出土品の説明を聞いて、その時代を想像することができ、面白かったです。